

インフルエンザと予防接種 説明書

1. インフルエンザとは？

インフルエンザは、空気中に拡散されたウイルスによって感染します。感染予防のため、人ごみはなるべく避け、規則正しい生活を心がけましょう。また、空気が乾燥するとウイルスも蔓延しやすいため、空気の入替えや加湿器などで部屋の乾燥を防ぐことも効果的です。外出時のマスクや、帰宅時のうがい・手洗いは、普通のかぜの予防と併せてお勧めします。

2. インフルエンザ予防接種の有効性

- インフルエンザ予防接種の有効性は世界的にも認められています。
- 我が国においても高齢者の発病防止や特に重症化防止に有効であることが確認されています。

3. 副反応

- 注射の跡が腫れたり、発熱・頭痛・だるさなどがみられる場合がありますが、通常2～3日で治ります。
- 接種後2週間以内に発熱・頭痛・けいれん・運動障害・意識障害が現れる等の報告があります。
- 非常にまれですが、ショックやじんましん、呼吸困難などが現れることがあります。

4. 接種前の注意

- 疑問点等は、接種前に担当医師に質問し、十分に説明を受け理解した上で接種しましょう。
- 予診票は接種する医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。基本的には、接種を受けるご本人が責任を持って記入し、正しい情報を接種医に伝えましょう。
- 説明書をよく読み、必要性や副反応についてよく理解しましょう。

5. 予防接種を受けることができない人

- ①明らかな発熱(通常37.5℃以上)のある人。
- ②重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人。
- ③インフルエンザワクチンに含まれる成分により、アナフィラキシーを起こしたことがある人。
※「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるアレルギー反応のことで、発汗・顔の腫れ・じんましん・吐き気・嘔吐・息苦しさなどの症状に続き、血圧が下がっていく激しい全身反応です。
※上記①～③に該当しなくても、医師が接種不相当と判断した時は接種できません。

6. 予防接種を受けるに際して、担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病や血液その他慢性の病気で治療を受けている人。
- ②以前に予防接種後2日以内に、発熱・発疹・じんましん等アレルギー症状がみられた人。
- ③今までに、けいれんを起こしたことがある人。
- ④今までに、中耳炎や肺炎などによくかかり免疫状態を検査して異常を指摘されたことのある人。
- ⑤今までに、ぜん息と診断されたことがある人。
- ⑥インフルエンザワクチンの成分や、鶏卵等鶏由来のものに対しアレルギーがあるといわれたことがある人。

7. 接種後の注意

- 予防接種後30分間は急な副反応が起こることがあります。医師とすぐに連絡が取れるようにしておきましょう。また副反応は24時間以内に現れることが多いので体調の変化に注意しましょう。
- 入浴は差し支えありませんが、注射をした部位を強くこすことはやめましょう。
- 接種当日はいつも通りの生活をして構いませんが、激しい運動や大量の飲酒は避けましょう。

8. 予防接種による健康被害救済制度について

インフルエンザの定期予防接種を受けた方に健康被害が生じた場合、その健康被害が接種を受けたことによるものであると厚生労働大臣が認定したときは、給付を受けることができます。

詳しくは厚生労働省のホームページをご覧ください。

予防接種健康被害
救済制度について
(厚生労働省)

